

<2021年6月6日(日)の伝道事業部長・山谷 真少佐のメッセージ>

こいつのことは絶対ゆるさない、ゆるせない、と思っていた相手のことも、5年、10年、15年と年月がたつうちに、だんだん忘れていくものです。なんてのんきに考えていましたら、最近過去を思い出させられる機会があって、そうすると、忘れていたはずなのに一気に怒りが込み上げてきました。それでも、昔の怒りのゲージを100だとすると今は36ぐらいではあるのですが。やっぱり自分、忘れてなかったんだ、完全にはゆるせていなかったんだ、ということ、しみじみ思わされました。それで、もう一回ゆるす決心をしたか、というと、そこがおぼつかないのです。そんな時に、神様はこの聖書の言葉を私に示してくださいました。マタイによる福音書6:14にあるイエス様の御言葉です。「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。」もし、このままゆるせなければ、この先ずっと相手を呪詛し続けていくことになってしまいます。でも、それだと「あなたも赦されないことになるよ？ いいの？」と今日の聖書の言葉は問いかけているのです。それは嫌ですね。困ります。ですので、気を取り直して、やっぱり「ゆるす」ための決心をしなければならぬと思わされました。「神様、どうか私を助けてください」という祈りです。インドで長年にわたり伝道し、ネルーやガンジーの親友でもあった E.スタンレー・ジョーンズ(1884-1973)という宣教師が『力と落ち着きへの道』(1949)という本を書いています。彼はインドで最初の精神科のクリニックを開いたひとでもあるのですが、患者にカウンセリングするなかで、神経症に苦しむ人のなかには「ゆるせない」という思いが原因になっている場合があるのではないかと考えるに至りました。そこで彼は「ゆるす」ことを患者に勧めてみたのです。「神のひとり子であるイエス・キリストの身代わりの十字架によって全人類の罪はゆるされた。この事実に基づいて、あなたの罪は完全にゆるされた。だから、そこからもう一歩進んで、あなたも過去にあなたを傷つけた相手をゆるしてみたらどうか」という勧めをしたのです。すると、その勧めをすなおに受け容れて「ゆるします」と決意した人のなかには、神経症の症状が緩解する人もいたということです。相手のためにゆるす、相手を思ってゆるす、ということであれば、相手が先に立つわけですので、考えれば考えるほどもっと怒りがわいてくるかもしれません。自分もまさにそんな経験をさせられました。ですので、相手のためにゆるすんじゃない。自分のしあわせのためにゆるすんだ、と考えればいいのではないのでしょうか。人間は基本的に利己的です。自分の利益に合致するなら進んでするのが人間です。ですから、相手をゆるすことについても、自分の利益を先に立てれば良いのではないのでしょうか。「神様。自分は一生のあいだ神経症に苦しむのは嫌です。だから相手をゆるします。それだけではありません。自分はすべての罪をゆるされて、天国で永遠の命を楽しみたいです。だから相手をゆるします。いま、ゆるしました！ どうか自分の決心を受け取ってください。イエスの名によって、アーメン」そういう祈りです。なんとまあ、品の無い自分中心の利己的な祈りであることか、と思われるかもしれません。でも、こと「ゆるす」ということについては、それでもいいのではないかと思うのです。そうでもしなければ、わたしたちは、いつまでたっても、ゆるせないのではないのでしょうか。ですので、ここはなりふりかまわず、自分最優先で、開き直って「ゆるす」決心をして行けたらと思います。